

2009年〈年末〉  
2010年〈年始〉

ホール・オーケストラの  
イチ押しコンサート  
ピックアップ!

東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

第26回定期演奏会  
12月5日(土)14時 東京芸術劇場・大  
ハイドン没後200年記念

出演者=指揮・チェンバロ:三石精一  
S:佐々木典子 T:経種麻彦 Bs:久保和憲  
合唱:東京ユニバーサル・フィルハーモニー混声合唱団  
(合唱指導:北川博夫)

曲目=ハイドン/オラトリオ「四季」

ハイドンの没後200年を記念して、彼の2大オラトリオの1つ「四季」を取り上げます。この曲は、四季ごとに移り変わる自然に対する素朴な農民たちの、期待や喜びや畏れなどの感情が実に生き生きと表現されていて、同時に、その全てを与えて下さる神様への感謝と讃美の思いが高らかに歌われます。全編を通じて、ハイドンが幼時を過ごした農村を彷彿させる描写に満ちていて、それらが実に明るく楽しく、躍動的に描かれています。ハイドンの全作品の中でも、彼の明朗で機智に富んだ性格をこれ程身近に感じさせてくれる曲は他にありません。

ハイドン自身の「神は私に朗らかな心をお与え下さったのだから、私が神を朗らかに賛美することをお許し下さるだろう」という言葉を、そのまま表現したかのような親しみやすい名曲です。



三石精一

佐々木典子

経種麻彦

久保和憲

S¥7,000 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 D¥2,000  
ペアS¥12,600  
(S席4枚以上、学生、シニア、車椅子割引あり、要問合せのこと)

ユニフィルチケットセンター TEL 03-3974-6557  
<http://www.mitsuishiseiichi-uniphil.com/>

恒例・特別企画1  
クラシック音楽界  
ゆく年くる年

年末年始のコンサート、  
その魅力と聴きどころ  
2009→2010

浅岡弘和

12月のお薦めコンサートはまず5日、東京芸術劇場での東京ユニバーサル・フィル第26回定期。今年没後二百年を迎えるハイドン・プロ。音楽監督・常任指揮者三石精一が大作、オラトリオ「四季」を振る。今年は「天地創造」は何回か演奏されたが、さすがに長大すぎる「四季」はメジャーな演奏会ではこれだけか。日本の指

既に日本の師走の風物詩ともなっている「第九」、そして戦後世界的な名物となったウィーン・フィルのニューイヤークンサートを取り入れたのか、日本各地で様々な新年演奏会が行なわれるようになって久しいが、最近流行の大晦日のカウントダウンコンサートなどもイヴェント好きの日本人にとって同工異曲のものである。故岩城宏之によって始められた大晦日の東京文化会館でのベートーヴェン全交響曲マラソンコンサート「ベートーヴェンは凄い！」も指揮者が小林研一郎一人になって三年目。小林の出演も今年で一応終止符を打つというので絶対に聴き逃さない。ライブでこそ真骨頂を魅せるコバケンだけに今年もきつと何かが起る？

さらに隣の小ホールでは対照的に同じベートーヴェンだが弦楽四重奏曲を9曲！ 採り上げるコンサートもある。日本の実力派、ルートヴィヒ弦楽四重奏団、クアルテット・エクセルシオ、古典四重奏団が3曲ずつ、ラズモフスキーセットと後期の6曲を演奏。

「第九」では、まず群馬交響楽団の三つの「第九」から。近年の群響は充実著しく、また定期演奏会は都心から新幹線を使わずとも充分日帰り可能なので筆者も時々、興味のあるコンサートには足を伸ばしているが、今回は群馬の使命である巡回コンサートの一環として群馬栃木の三つの市で「第九」を演奏。何と指揮者、ソリスト、併演の演目と全て異なっており、近県の方は正統派、個性派、異能派、様々な「第九」の聴き比べができるかも。

揮界きつての実力者三石の棒によるだけに大いに期待できよう。